

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 12 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20520647

研究課題名（和文） 海の論理からみたイングランド中世史（10世紀から13世紀）の再検討

研究課題名（英文） The medieval history of England revised from a point of view of the sea

研究代表者 鶴島 博和 (TSURUSHIMA HIROKAZU)

熊本大学・教育学部・教授

研究者番号：20188642

研究分野：史学

科研費の分科・細目：西洋史

キーワード：漁業 海、生業、海民 中世 イングランド

## 1. 研究計画の概要

本研究は、研究史上等閑視されてきた10世紀から13世紀までの（ただし史料上の制約から、16世紀までを視野に入れなくてはならないこともある）イングランドの近海域および内水系における漁撈を中心とした海および川での生業の総体的把握を通して、イングランド中世史の再検討を行うものである。そのために以下の四つの視点を設定した。

- (1) 環境と技術の視点。生態系や海岸線などの地理的条件とその変化、造船、航海、漁撈に関わる技術とその水準の解明。
- (2) 社会的諸関係の視点。海民と水軍を中心とした共同体関係と領主制的な支配関係とそれらの相互関係の解明。
- (3) 権利関係の視点。地先権などの海水面に対する「陸」の権利の解明。
- (4) 市場（いちば）と交易の視点。漁獲物に対する領主制的な権利関係と、流通と市場のメカニズムの解明。

この四つの視点から、イングランドの各地域の生業総体の把握をめざしている。地域のおかれている環境によって生業社会の構造は異なるために、研究は地域単位でおこなう。

## 2. 研究の進捗状況

## (1) 史料収集と文献渉猟

史料と文献の収集に関してはほぼ当初の予定通りの成果を上げることができた。2010年にはエルフリックの古文書を大英図書館で転写し、刊本が古英語で編集されていたのを本来のラテン語で編集し直すことができ

た。そこから1000年頃の漁労と交易の対象となった魚種を確定した。また、魚種確定のために重要な各地の考古学の成果を収集することができたことは、魚種のデータ・ベースの完成度を上げる上で重要な意味をもつと思われる。

## (2) 魚種のデータ・ベース

中世の史料から収集した食用に供した魚種の数には159種類ほどになった。現在市場流通の実態を解明するために会計録などから単価を調べている最中である。

## (3) 「環境と技術の視点」からの知見

2008年から東部、西部とイングランドの海岸部を巡見し、現在の漁村の実態などを観察し、また現地の博物館や図書館、古書籍店などで、生態系や海岸線などの地理的条件とその変化、造船、航海、漁撈に関わる技術とその水準を明らかにする資料を収集してきた。

## (4) 「社会的諸関係」・「権利関係」・「市場と交易」の視点からの知見

紀元1000年頃の比較的早期の時点からの魚の流通の事実を解明できた。また西部の事例から、領主への現物地代としての魚の上納、あるいは腐りやすいという特性から、現物地代の変形とみられる領主の必要な魚を最安値で購入する優先権といった慣行の存在などが明らかになってきた。

## (5) 研究成果

研究成果に関しては、主として啓発的で問題提起的な論稿を主として発表してきた。現在、データ・ベースをもとにした中世イングランドの人々が食した魚種に関する論文を作成中である。また、総合的な観点から、中世イングランドの海を中心とした著作の刊行を考えている。

3. 現在までの達成度  
やや遅れている。

〔理由〕

中世史料に記載されている魚が辞書的な意味でその言葉通りかを確定する作業に手間がかっている。その方法は史料の当該箇所での考古学の発掘成果を渉猟して、骨格標本のレベルで確認しなくてはならない。また、漁労方法に関する史料が少なく、近世から遡及話法的に類推する作業が手間取ったため。

以上のような理由もあり、当初考えていた専門的な学術雑誌論文の執筆が遅れているためこのような評価とした。

4. 今後の研究の推進方策

現在中世イングランドの人々が食した魚種に関する論文を作成中である。また、総合的な観点から、中世イングランドの海を中心とした著作の刊行を考えている。今後この研究は二つの方向性をもって展開していく。

- (1) 科学研究で行った研究対象をイングランドからブリテン島に拡大する。
- (2) 輸送といったより広範な海の生業へのアプローチを拡大すると共に、鉱山などの非農業的な分野に研究の視野を広げる予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

Hirokazu Tsurushim, 'Hic est miles: some images of three knights: Turolde, Wadard and Vital、査読有り、Michael J. Lewis, Gale R. Owen and Dan Terkla, *The Bayeux Tapestry: New Approaches: Proceedings of a Conference at the British Museum*, Oxbow Books

〔学会発表〕(計1件)

Hirokazu Tsurushim, 'Hic est miles: some images of three knights: Turolde, Wadard and Vital、New Approaches in a Conference at the British Museum (2008).

〔図書〕(計4件)

鶴島博和「前近代のイギリス」木畑洋一/秋田茂編『近代イギリスの歴史』ミネルヴァ書房, 2011, 3-24.

鶴島博和「2章ローマン・ブリテン～10世紀」近藤和彦編『イギリス史研究入門』山川出版(2010), 26-47.

鶴島博和「3章11世紀～近世前夜」近藤和彦編『イギリス史研究入門』山川出版(2010), 48-79.

Hirokazu Tsurushima, *Nations Medieval Britain*, Shaun-Tyas, Donington, 2010, pp. 148.

〔その他〕

2009年6月5日 Fellow of the Society of Antiquaries of London (FSA)の称号(title)授与。

研究成果はホームページ「奏文庫歴史研究所」およびブログ「中世ブリテン史研究会」において逐次公開また公開していく予定。完成したデータ・ベースはここで公開する。